

が理解に基く協調一致の力に依り、實際的施設を行んとし又顧問としては京都帝國大學教授神戸正雄博士及び長谷川柳太郎氏就任し、組合幹部としては

横田千代吉 黒田徳松 高橋金五郎 堂前彌三郎 平井榮藏 横山大作  
桑島武夫 阪本孝三郎

氏等にして、竊に確信する處あり血管に躍る脈々たる情熱は、飽迄堅實なる思想と相俟つて、行く可き道を正視したのである。

#### 第四章 鐵工組合の活動

六月十五日大阪鐵工組合機關紙第一號が發行せられた、續いて組合員が佩用すべき徽章を制定したのである、徽章は直徑五分五厘にして意匠はハンマーを握れる筋骨稜々たる腕に光輝を放てるものにして、此徽章を佩用せる者は、例令其の顔を知ずとも其の姓名を知らずとも、何時何處に邂逅しても、直ぐ我が兄弟だと知る目標となるものであつて頗る有意義にして且つ嚴肅なものである、斯くて鐵工組合は漸次内容を整備し、盛んに労働

問題研究會討論會を開催し安治川支部は盛んに公開演說會を催した。一方法律顧問に法學士古賀英氏を囑托し、法學士村木正憲氏に相談役を工學博士片岡安氏に顧問を囑托し、又衛生顧問を木庭永助氏小牧廣太郎氏等に委嘱し、堂島電氣俱樂部等に於てしばしば組合員懇親會を催し、盛んなる卓上演說は唯だに理論の上のみならず、感情の上にも渾然融合同化したのである、人間生活——殊に勞働者の生活は相寄り相助ける程心好いものはない、宜なる哉我が同志は大阪全市に亘つて續々各支部を増設したのである即ち八月十六日市岡支部發會式に續いて、九月二十九日今宮支部發會式十月五日玉造支部發會式 十月二十六日櫻島支部發會式 十一月二十五日南恩加島支部發會式等舉行せられ、其他安治川支部城東支部本庄支部福島支部十三支部等成立し、到る處に於て研究會茶話會討論會催せられ、鐵工組合成立僅々八ヶ月にして此壯觀を見る、多年試練を積ねたる同志の思想愈々堅實に、其の基礎又漸く堅く旺鬱せる活力はしばしば街上に躍り出でんとし加ふるに職工學校出身者一團となりて來り會するに及んで、意氣頓